



町長室へようこそ No.147

[鹿の有害駆除と活用]

この冬、1月にまとまった雪が降るまでは、本格的な除雪作業から解放されていましたが、困ったことは、雪が浅いため秋まき小麦の新芽が鹿に食べられる害が多発したことです。9月に種を蒔き、雪が降る迄に10センチほどに伸びて、雪の下で春を待ちますが、鹿にとってはこの新芽がごちそうで、雪が浅いと掘って食べられてしまいます。電気柵も雪で効果が落ちますから、ある程度の雪は積もってほしいのです。

滝上町はもとより北海道内では増えすぎた鹿や熊など有害鳥獣によって農作物や森林が大きな被害を受けていることから、地元の猟友会に依頼し春から秋迄を駆除期間とし、鹿と熊の捕獲を行っています。今年度は鹿が600余頭、熊は24頭捕獲駆除しました。

しかし、駆除期間が過ぎた10月以降の猟期に入ってから被害が広がったため、今後は駆除期間を通年に広げ、被害防止を図ることにしています。この有害駆除は北海道が許認可の権限を持っていますが、このほど、有害駆除の許認可権限を町に移してもらいましたので、今後はよりスムーズに対応できるものと思います。

鹿捕獲のもう一つの取り組みである「囲いワナ」は、冬場、餌を求めて市街地周辺に出没し、芝ざくら、施設の防風林、住宅の庭木が食べられる被害や乗用車との接触事故も発生していたことから、猟銃が適さない場所での捕獲方法として考案されたものです。鹿の山林被害や道路横断が多発する

区域の空き地に高さ2.5m、周囲50m余の柵を設置し、中に置いた餌を食べに集まった鹿を生け捕りにする捕獲方法です。

平成25年に「囲いワナ」を設置し、今年で8年目になります。他の地域では設置後3年位で鹿が学習し、柵に入らなくなるので設置場所を変えているそうです。本町では毎年50~80頭の捕獲があり、今年は80頭を超える見込みで、鹿が学習しないわけではなく人間の知恵が上回っている証拠です。滝上町の実績は定説を変えることになり、注目を浴びそうです。

捕獲した鹿は養鹿する業者が引き取ってくれ、森からの贈り物「ジビエ」として食用に供されます。

遠軽町でも民間業者がジビエの処理施設を始めました。滝上町から持ち込まれた鹿も処理されていて、先般、鹿肉を使ったソーセージ作りを加工センターで開き、好評を得たところでした。鹿肉については、かつて血抜き処理が十分されていない肉を食べた経験から、町民の間にはいまだに美味くないとの印象が持たれている向きもありますが、今は食用に供する狙撃部位は首から上が理想とされ、脂肪分が少なく鉄分は多いヘルシーな肉として人気があり、買い入れ価格も高いそうです。

農林被害を防止する有害駆除を一步進めて、獲ったシカを有効に活用するためにも、ジビエのおいしさをもっと広めたいと思います。

滝上町長 長屋 栄一

◇町長へのメールアドレスは tyoutyou@town.takinoue.hokkaido.jp です。

町長の主な動向(1/16~2/15)

(1月)

- 16日 職員採用試験
- 18日 令和2年度滝上町ふれあい学級1月学習会新年交流会、オホーツク町村会役員会(網走市)
- 19日 滝上町森林組合要望書受領
- 20日 滝上町教育委員予算要望
- 26日 議会全員協議会
- 27日 町有林素材売却入札
- 29日 第2回臨時町議会

(2月)

- 1日 100歳祝金贈呈、令和3年網走地方教育研修センター組合議会定例会及び令和2年度オホーツク町村会定期総会(網走市)
- 2日 工事検定、滝上町に核物質を持ち込ませない条例の制定を求める会要請回答書手交
- 3日 令和2年度第1回滝上町子ども子育て会議
- 5日 第3回臨時町議会
- 7日 職員採用試験
- 12日 100歳祝金贈呈
- 15日 北海道防災協会令和2年度第2回委員会、全国共済農業協同組合連合会北海道本部訪問及び北海道総務部危機対策課訪問(札幌市)